



平成 23 年度 東京情報大学新入生の皆様へ

東京情報大学

学 長 新 沼 勝 利

新入生諸君 ご入学おめでとうございます。

このたび東日本大震災において、犠牲者となった皆様に衷心よりご冥福をお祈りし、被災された方々に対しましては、心よりお見舞い申し上げます。3月11日に発生した地震、そして続く津波や原発事故など未曾有の災害が今も続いていることに思い致し、一刻も早く地域が復興するとともに避難所等において不便な生活を強いられている方々に安穩が訪うよう願ってやみません。

今般の震災では、自然の脅威の前に只々人間の卑小さを思い知らされることとなりました。特に、水や電気、ガスといったライフラインが寸断されるとともに、安否や避難情報など必要な情報を必要な人に届けることができなくなりました。改めて情報がライフラインの一つであることを実感するとともに、デジタル社会の脆弱性が露呈されることとなりました。これは、情報学^{しら}に突きつけられた重い課題であります。従来の情報学は、便利で快適な社会を実現させるための「報せる」技術に力点が置かれてきました。しかし、これからの情報学は、情報の「情」の部首である「心」の部分こそが問われるように思います。社会の紐帯として「情報学」が希求するのは、本来の重要なテーマである人と人との関係をどのように築くことができるかという事に尽きるのではないかと自覚いたしました。

さて、こうした事を踏まえて、新入生の皆様に東京情報大学がどんな事に力を入れているかについてお話したいと思います。

まずは、大学の柱となる理念についてお伝えします。本学では、諸君が社会にとって有為な人材になっていただけるよう、建学の精神を「未来を切り拓く」、教育理念を「現代実学主義」、学生指導の理念を「自立と協調」として教育・研究と指導を行っています。兄弟校東京農業大学の初代学長の横井時敬先生は、農学の教育研究をとおして農業技術や農村社会の発展に寄与する人材の育成を目指し、その教育理念を「実学主義」におきました。東京情報大学でもこの実学精神を継承し、実社会から学ぶ姿勢を重視しています。

第二は、情報教育です。情報学は、医療、行政、生命科学、産業などへの応用が期待されると共に、資源の少ない我が国にとって益々重要になる学問分野です。総合情報学部では、全学科共通において、ネットワークやプログラミングなどの情報技術と新聞や放送をはじめとするマスメディアや統計学など情報の見方や捉え方といった情報学の基礎を学習します。これを土台にして、それぞれの学科における専門分野を学びますが、学部と学科の教育理念や目的と、卒業までに身につける知識

レベルとして学位授与の方針（ディプロマポリシー）をホームページ等に示してあります。改めて、何を身につけて欲しいのかをしっかりと読み取って欲しいと思います。

第三は、研究室です。本学は、研究室を主体とした教育を特色としています。3年生から自らの興味や関心に応じて、全員が研究室を選ぶこととなります。重要なのは、「自ら歩む姿勢」と「好奇心」。自ら歩くことで本当の実力がつき、好奇心は夢を実現するためのエネルギーとなります。常に授業や日常生活において、「何故？」という疑問を持ってください。必ずしも正解を出す必要はありません。疑問の解決に向けてアイデアを出し、試行錯誤の努力を重ねることで、少しずつ真の実力が磨かれていくのだと私は考えています。それぞれの研究室では、実際の社会に直結するテーマに挑戦できるとともに、就職も積極的に応援します。

第四は、社会人として必要な基礎力の育成です。本学では大学の4年間を皆さんが社会人になるための重要な準備期間として位置づけて、1年生から就職や資格取得に役立つ授業科目や各種の就職支援行事など、将来をデザインするための独自のプログラムを用意しています。この教育プログラムを通じて、働くことの意味やそれぞれの業界に対する知識、学んだ知識を活かした職業選択、就職において最も重要とされるコミュニケーション能力が身につきます。皆さんには、「すぐに役立つこと」と「将来役立つこと」の両方を修得して欲しいと願っています。

第五は、課外活動です。本学には様々な課外活動団体があります。勉強も大切ですが、課外活動を通じて一生涯付き合える人間関係を築いていただきたいと思います。強化指定部では、昨年硬式野球部が千葉県大学野球連盟秋季リーグ優勝、バドミントン部は昨年女子が関東学生リーグ2部に昇格し、男女とも同リーグ2部（同リーグ所属大学の上位12校）に位置しています。女子サッカー部は昨年夏、全日本女子サッカー選手権大会千葉県予選に優勝するなど活躍をしています。

最後になりますが、本学では、東アジア地域の環境をテーマとした世界レベルの研究プロジェクトも進められています。本学と東京農業大学オホーツクキャンパス（北海道網走市）、宮古亜熱帯農場（沖縄県宮古島市）に、我が国有数のNASA地球観測衛星の受信基地を設置して、ベーリング海から南シナ海におけるアジア東岸域の大気、海洋、陸域の環境変化をリアルタイムで捉えることを可能としています。今後、自然、社会、情報ネットワークなどを柱にした研究によって、我が国を含めた東アジア地域の持続的な発展にとって有効な提言ができるよう力を注いでいきます。

この震災による爪痕は深く、回復への足がかりを暗中模索している途上ですが、人々の英知を結集することできっと克服できると信じております。情報学を通じて学生の皆さんと一緒に新たな課題に取り組むことで、より良い未来を切り拓いていきたいと考えています。